

# 提案型セッション概要

## ■提案型セッション①:国際交流セッション

International exchange session

国際部では、技術者や日本の学生と留学生との交流を目的とした発表セッションを群馬大会で設けます。要旨は日本語でも英語でも構いませんし、口頭発表の言語も日本語・英語を問いません。ただし、日本語の話者は、発表スライドを日本語に英語を併記（英語のみでも可）いただける発表を募集します（すべての和文を英文に対応させなくても構いません）。

科学技術の進展は目覚ましく、地すべりの分野でもより一層の国際的な議論が求められます。また、海外から地すべりの諸現象を学ぶ留学生が増えることも期待されます。そのような情勢を踏まえ、技術者や日本の学生は、是非本セッションで発表して留学生と交流して下さい。また、各社におかれては本セッションを新たな人材の募集や採用のきっかけにさせていただけることを期待します。

近年、機械翻訳や自動通訳の機能がついた器材やアプリケーションも急速に普及しているようです。質疑・応答の時間でのコミュニケーションの取りづらさは承知していますので、連絡先の交換の自由時間に替えていただいても構いません。気軽に応募くださると幸甚です。なお、留学生の皆さまにおかれましては、このセッションに応募するか否かはご本人の意向や、ご指導される先生方のご意向を第一にご検討ください。

## ■提案型セッション②:新しい変位計測手法に基づいた斜面崩壊発生予測

Prediction of failure time of a slope based on newly-developed technology for displacement measurement

地すべりや斜面崩壊に用いられてきた地表面の変位計測技術は、主に伸縮計を利用してきましたが、近年、GNSS、衛星 SAR、MEMS 傾斜計など多次元方向の変位が計測できる機器の利用が進みつつあります。また、自動計測化が進み、高頻度データサンプリングも一般化しつつあります。しかしながらこの計測データに基づく斜面崩壊予測手法の検討は進んでいません。1960~80 年代に齊藤や福囿などにより提案された、計測変位に基づく崩壊予測手法は、伸縮計による 1 次元方向の変位速度を利用したものです。GNSS など 3 次元変位を高頻度に計測できる機器であっても、崩壊予測にあたっては 1 次元方向の変位に換算した上で計算されており、多次元方向での変位計測のメリットを活かしきれていません。また計測変位が急増を開始しても、その後増加が停止してしまい、崩壊予測が「空振り」するなどの課題があり、崩壊予測が信頼されていないという課題があります。

本セッションでは、斜面崩壊発生予測に繋がる多次元方向や高頻度計測などの新しい変位計測手法や、現地斜面や模型斜面上の計測変位に基づく斜面崩壊発生予測の事例を公表し、今後の計測変位に基づく斜面崩壊発生予測手法の高度化を目指します。

## ■提案型セッション③:地震地すべりの評価手法について

### Evaluation Methods for Earthquake-Induced Landslides

令和6年能登半島地震では、奥能登地域を中心として多数の地震地すべりが発生し、社会基盤施設や集落に深刻な被害を及ぼした。これを受けて、地すべり学会では令和6年4月1日に「日本地すべり学会能登半島地震対応委員会」を設立し、変位による地すべり安定性評価、地震地すべりの評価手法等の研究を目的とした部会を立ち上げ活動してきた。一方で、地震地すべりに関する研究や評価手法は、これまで新潟県中越地震や岩手・宮城内陸地震などの大規模地震を通じて蓄積されてきたものの、発生危険箇所の抽出、地震時安定性評価、対策効果の評価といった点については、必ずしも体系化された手法が確立しているとは言い難い状況にある。

本セッションでは、能登半島地震で検討された評価手法の他、過去の地震地すべり事例において検討されてきた評価手法を整理し、当学会で活動中の能登半島地震災害対応委員会との情報交換も含め、学会員の皆さんへ積極的な参加を呼びかけます。